

資生堂、横浜・みなとみらい 21 地区で 新研究所「グローバルイノベーションセンター」起工式を実施

資生堂は 10 月 24 日(月)、「グローバルイノベーションセンター」(以下 GIC)建設工事を開始するに当たり起工式を「横浜・みなとみらい 21 地区」で行いました。GIC は将来の成長を支えるための基礎・基盤研究の拠点として重点的に強化するとともに、世界で展開する各地域の研究開発拠点のハブとしての機能を担いつつ、お客さまをはじめ様々な人々との交流の中から新たなイノベーションを創出していくという、これまでにない開かれた研究の形を具現化していきます。化粧品の研究所として世界最大級(※)となる GIC は、2018 年末に稼働予定です。

5 月に拡張オープンしたアメリカイノベーションセンター、11 月に中国イノベーションセンター上海分室拡張を控え、世界 5 カ国 9 カ所に及ぶ研究開発拠点を整備し、お客さまにより密着した価値創造を推進します。

※化粧品(ビューティケア)の研究所として単一施設での人員数が世界最大級



資生堂グローバルイノベーションセンター(イメージ図)



資生堂のグローバル R&D 拠点

GIC による新たな価値創造

当社の研究所は今年で、その前身となる試験室開設から 100 周年を迎えました。これまで最新の皮膚科学と処方開発技術に基づく高品質な製品の開発を実現してきました。しかし昨今、化粧品市場が成熟化・均質化し、競合との競争が激化するなか、当社が 100 年後も輝き続けるためには、多様な知、多様なひととの融合による新たな価値創造「フュージョン&イノベーション」が必要と考え、それを具現化する場としてこの GIC を活用していきます。

ハード面における新たな環境構築だけでなく、ソフト面である研究員の働き方についても、研究員同士、お客さまや外部研究機関、海外の R&D 拠点など社内外との知の融合を引き起こすワークスタイルの変革についても様々な取り組みを始めています。その成果は新研究所のオフィスエリア、実験室エリアの内部設計へと反映させ、開所時にはその効果を最大限発揮できるような研究体制としてスタートします。

GIC のコンセプト

1.都市型オープンラボ

自身の選択眼で消費を行うアクティブコンシューマーとの、直接的な交流をとおした価値づくりによる、お客さまのところに共鳴するコトづくり

2.多様な知の融合

最先端の研究機関や、流通などの異業種との出会いによる、新たな価値の創出

3.グローバルイノベーションハブ

世界中のお客さま・技術情報の一元化と、グローバル展開による価値の発信

オープンコミュニケーションスペースについて

GIC は当社の世界のイノベーションセンターの核となる最先端研究施設であると同時に、1・2 階のオープンコミュニケーションスペースは「美のひらめきと出会う場所」としてお客さまに美しくなっただけ施設でもあります。

1 階は多様な美をお客さまとともに創り上げていくフロア。研究員と交流しながら気軽に化粧品を試していただける「ビューティー・バー」、ランニングを中心にアクティブな美しさを求めるお客さまが集う「アクティブ・ビューティー・ステーション」、そして食と美の研究から生まれたメニューを提供する「デリ&カフェ」で構成されます。（名称はいずれも仮称）

2 階は「知覚的ひらめき」を促す複合ミュージアム空間。140 年以上の歴史を持つ資生堂の企業文化に触れるだけでなく、未来に向けた美の可能性の展示スペース、そして美をテーマにセレクトされた書籍や映像が数千と並ぶライブラリで構成されます。横浜を訪れる観光客や一般のお客さまだけでなく、研究員も過去の歴史に常に触れることで新たな気づきを得ることができるスペースです。

なお 1・2 階のオープンコミュニケーションスペースは、プロデュースを小山薫堂氏（オレンジ・アンド・パートナーズ）に、デザインを佐藤オオキ氏（nendo）に担当いただいています。



ビューティー・バー



デリ&カフェ（いずれもイメージ図・仮称）

GIC 概要

【所在】横浜市西区高島一丁目 2 番 52 ほか 10 筆（みなとみらい 21 地区 56-2 街区）

【敷地面積】7,023 ㎡

【計画概要】地上 16 階、地下 1 階（鉄骨鉄筋コンクリート（CFT）造、延べ床面積 58,231 ㎡、建物高さ 76.91m）

【総事業費】300～400 億円（想定）／うち土地取得費 68.3 億円